

文学教授の

名作リライトで作家の技が見える術

文

学や物語を題材にした自由研究は、創作の幅が広く、オリジナルライターが発揮しやすいという特徴があります。

私がおすすめたのは、文学作品の「二次創作」です。書き出しだけ借用して別の作品に変える、登場人物の性別や年齢を変える、結末だけを書き換えるといったことをしてみると、慣れ親しんだ物語がいつもと違った見え方になります。

誰もが知っている昔話や名作文学を題材にすると面白いかもしれませんが。たとえば、『ももたろう』をサル目線で見てパロディ作品を作ってみましょう。

桃太郎の主人公をサルにすると、さびだんごをもらうシーンで、さびだんご一つか。これで鬼と戦うのは、なんだかかわりに合わないなとためらうなど、今までになかった場面が生まれるはず。

パロディ作品から、原作のすごさが見えてきます。



勇ましき一辺倒の童話が、弱さをうちに秘めながら頑張る友情話になるかもしれません。

実際に桃太郎を鬼の子供の視点から描いた絵本が出版されています。鬼の子供から見たら、桃太郎は加害者で、鬼は被害者です。

こうした二次創作のどこが面白いかというと、子供の独創性が発揮できるだけでなく、なぜ、原作用がそのように描かれていたのかを考える機会にもなることです。

先の桃太郎の例で言えば、どうしてサルはさびだんご一つで桃太郎についていったのだろうと、か、なぜ、鬼が一方的な悪者に描

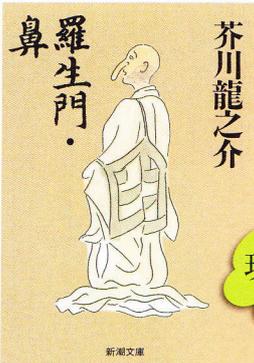
STEP 1 名作の“もし”を考えよう



サル目線だとどんな話になるかな？



王様から見たメロスはどんな人物だろう？



現代版にするなら、羅生門はどこを舞台にするかな？

阿部公彦先生

1966年生まれ。東京大学文学部教授。英米文学研究と文学一般の評論を行う。著書に『名作をいじる「らくがき式」で読む最初の1ページ』など。

子供は替え歌やアナザーストーリーが大好きです。まずは好きな作品のどこを変えるか、1つ選んでみましょう。登場人物を変えてみる、時代設定を変えてみる、エンディングを変えてみるといった方法がおすすめです。

